

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.85
2024年
11月11日発行

発行人：野尻紀恵 編集委員：熊谷紀良、松山毅、梅澤稔
〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F
[事務局：全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)] Eメール jimukyoku@jaass.jp

第30回とうきょう大会開催にあたって

大会実行委員長 田村真広 (日本社会事業大学)



節目となる第30回大会を日本社会事業大学にて開催することとなったとき、まず念頭に浮かんだのは第20回大会との違いについてでした。第20回は、被災の痛みからの復興途上に希望の道を確認できた熱気あふれる大会でした。あれから10年。間にコロナ禍という溝が走っています。みんなが当事者となったコロナ禍において、利他的な思考や行動が社会に溢れるのかと思いきや、利他的行動を封じるような否定的かつ攻撃的な正反対な言動が表面化しました。仲間うちから意外な反応が突きつけられたこともあって、慣れ親しんできたスタンスに迷いとゆらぎが生まれました。終息後もなお、後遺症のように悩ましい事態は続きました。コロナ禍が一方向的に社会を破壊したのではなく、共生社会を構築する契機になったという視点をどう展開しうるのか。自問自答しながら大会を準備してきた1年半でした。モヤモヤすること、エモいことに寄り添い、表現・言語化し、問いを立て、一過性の出会いと交わりから鍵となる何かを導き出そう。大会テーマの「気づきの連鎖」には、こうした決意と願いが込められています。

第30回大会では、地域に根を張る実践と研究、首都圏という地の利をいかした企画を揃えました。ワークショップと特別課題研究を別々の時間帯に配置しています。本学会のミッションと会員構成に鑑みて、会員を実践志向と研究志向に分かたず、双方に関与するプログラムをつくるという理事会の見識を取り入れました。ここで、とうきょう企画について、少し宣伝させてください。

ワークショップには、コロナ禍を経た学生ボランティアの支援に焦点を当て、災害時にくり返されてしまう取組みの壁を乗り越える学びを探り、言語を超えた表現豊かな対話から新たなカタチを構想し、地域に定着した『ふくしえほん』をさらに拡張する思考実験を試みるという魅力的なラインナップを揃えました。学会企画「ふく・ボラサロン」とあわせて初日午前10時の開会ですが、会員諸氏の英知を結集するワークショップに乞うご期待です。ふるってご参加いただきたく存じます。

とうきょう企画の特別課題研究では、障害者差別解消に向けた当事者発信の先駆者による発信内容・対象・方法・成果・変遷等を整理することから相互理解と差別解消への展望を探ります。また、「内なる優生思想」の生成の要因を探り、気づきと対話を通じた解放への糸口を見出します。旧法の規定を違憲とし国の賠償責任を認めた7月の最高裁判決を受け、10月には「旧優生保護法補償金等支給法」が成立しました。再発防止や名誉回復はこれからです。学会企画とあわせて、時宜に叶った課題別研究にて、熱のこもった議論をしていただきたく存じます。

被爆者の立場から核兵器の廃絶を訴えてきた日本原水爆被害者団体協議会がノーベル平和賞に選ばれました。語り部と語り継ぎの生成を重視してきた福祉教育・ボランティア学習の針路を明るく照らす受賞でした。とうきょう大会にて意味ある節目を刻み、社会に顕在化した分断を乗り越える実践と研究を、しなやかに、したたかに、ねばりよく進めてまいりましょう。

日本福祉教育・ボランティア学習学会 第30回とうきょう大会 開催概要

究める 拡がる 福祉教育・ボランティア学習
～気づきの連鎖が織りなす排除なき共生社会へ～

前日企画 2024年11月22日(金) 【会場】全国社会福祉協議会
(東京都千代田区霞が関3丁目3-2)
【1日目】2024年11月23日(土・祝) 【会場】日本社会事業大学
【2日目】2024年11月24日(日) (東京都清瀬市竹丘3丁目1-30)

◆ プログラム

11月22日(金) 13:30～16:30

前日企画 学会ネットワーク委員会企画ワークショップ

11月23日(土・祝)

9:00～ 受付

10:00～12:30 ふく・ボラサロン(学会企画)
ワークショップ(とうきょう企画)

13:30～14:00 開会

14:00～14:30 基調講演

14:45～17:15 特別課題別研究(とうきょう企画)
課題別研究(学会企画)

17:15～18:15 学会総会

18:30～20:30 情報交換会

11月24日(日)

9:00～12:00 自由研究発表

13:00～15:30 第30回大会記念
シンポジウム

15:30～15:40 大会発表賞表彰式

15:40～16:00 閉会

11月23日(土・祝) 9:00～17:00 / 11月24日(日) 9:00～17:00 書籍販売等

☆☆☆☆☆☆☆☆前日：11月22日(金) ☆☆☆☆☆☆☆☆☆

前日企画 学会ネットワーク委員会企画ワークショップ

■ 福祉教育の価値とは ～住民の主体形成の瞬間を紐解く～

【期 日】 2024年11月22日(金) 13:30～16:30

【会 場】 全国社会福祉協議会 5階会議室（東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル）

【プログラム】 ①基調パネル「福祉教育の価値の言語化の必要性～住民の主体形成に向けて～」

梅木博志（横浜市社会福祉協議会） 川島ゆり子（日本福祉大学）

坂本大輔（登別市社会福祉協議会）

②事例発表・質疑

伊藤光洋（江南市社会福祉協議会） 畑 清美（三田市社会福祉協議会）

③グループワーク ④まとめ

【世 話 人】 日本福祉教育・ボランティア学習学会ネットワーク委員会

☆☆☆☆☆☆☆☆1日目：11月23日(土・祝) ☆☆☆☆☆☆☆☆☆

受 付

【A棟ホール】 9:00～

ふく・ボラサロン（学会企画）

10:00～12:30

■ 福祉教育・ボランティア学習を語ろう

【A101 教室】

ホスト：上野谷加代子、原田正樹、松岡広路

世話人：小林洋司（日本福祉大学） 松山 毅（順天堂大学）

菱沼幹男（日本社会事業大学） 渡久地美智留（日本社会事業大学大学院生）

ワークショップ（とうきょう企画）

10:00～12:30

■ ①コロナ禍を経た学生ボランティアを地域に紡ぐ支援のあり方・支援者の役割を問う

【C301 教室】

世話人：佐藤 陽（十文字学園女子大学） 齋藤元気（立教大学ボランティアセンター）

川田虎男（埼玉県立大学、聖学院大学ボランティア活動支援センター）

**■ ②考えてみよう！災害時の課題を繰り返さないために必要な取組みとは
～取組みの壁を乗り越えるために何を学び深めるのか～**

【C302 教室】

世話人：後藤真一郎（帝京平成大学） 熊谷紀良（東京都社会福祉協議会）

北川 進（日本社会事業大学） 島津屋賢子（日本社会事業大学）

■③表現豊かな対話を通じて、福祉教育・ボランティア学習をカタチにしてみる

【C303 教室】

世話人：原島隆行（社会福祉法人若竹大寿会） 梅澤 稔（板橋区社会福祉協議会）
森新太郎（特定非営利活動法人 KITARU）

■④『ふくしえほん』を小中高校生へつなげよう

【C304 教室】

発表者：大塚隆人氏（狛江市社会福祉協議会） 白石珠美氏（狛江市社会福祉協議会）
世話人：荻野雄飛（大東学園高等学校） 熊倉悠貴（筑波大学付属坂戸高等学校）
坂本晃一（東京都墨田区立菊川小学校） 高木 諒（愛知県立古知野高等学校）
田村真広（日本社会事業大学） 藤井佳子（日本社会事業大学）

開会式

【講堂】 13:30～14:00

- 主催者あいさつ 野尻紀恵（学会会長、日本福祉大学）
- 大会長あいさつ 横山 彰（日本社会事業大学学長）
- 開催地あいさつ 澁谷桂司氏（清瀬市長）

基調講演

【講堂】 14:00～14:30

「混迷する社会における福祉教育・ボランティア学習」

野尻紀恵（学会会長、日本福祉大学）

特別課題研究（とうきょう企画）

14:45～17:15

■①障害者差別解消に向けた当事者発信の『今』

—何を、誰に、どのように発信して、どのような未来を目指すか— 【B101 教室】

報告者：森田かずよ氏（俳優・ダンサー、CONVEY 主宰） 瀬戸山陽子氏（東京医科大学）
茂手木寛子氏（拡大写本サークルつばさ／神奈川県視覚障害者福祉協会）
世話人：大部令絵（日本社会事業大学） 疋田恵子（杉並区社会福祉協議会）
倉持香苗（日本社会事業大学）

■②『内なる優生思想』と向き合う ～気づきと対話をいかにつむぐか～ **【講 堂】**

報告者：金 貴粉氏（国立ハンセン病資料館 学芸員）

石渡和実氏（東洋英和女学院大学名誉教授、やまゆり園事件検証委員会委員長）

橋田慈子氏（千葉大学教育学部教育学教室助教）

世話人：秋貞由美子（中央共同募金会） 松山 毅（順天堂大学）

宮脇文恵（宇都宮短期大学） 渡久地美智留（日本社会事業大学大学院生）

課題別研究（学会企画）

14:45～17:15

■①SDGs 運動を組みなおす実践論の探求～居場所・プラットフォームづくりに注目して～ **【A301 教室】**

報告者：諏訪 徹（日本大学） 後藤聡美（神戸大学）

コーディネーター：松岡広路（神戸大学）

世話人：松岡広路（神戸大学） 諏訪 徹（日本大学） 市川享子（東海大学）

齋藤優子（日本生活協同組合連合会） 佐藤 陽（十文字学園女子大学）

堤 拓也（佛教大学） 後藤聡美（神戸大学）

■②『社会福祉・介護福祉検定』のレリバンスーその 2ー **【A302 教室】**

代表世話人：矢幅清司（淑徳大学）

世話人：岡多枝子（人間環境大学）

真田龍一（東奥学園高等学校）

茶木正幸（名古屋市立西陵高等学校） 高木 諒（愛知県立古知野高等学校）

出沢秀子（山梨県立大学）

中山見知子（群馬県立吾妻中央高等学校）

■③インクルーシブボランティア：『誰もが参加できる』を目指して

ー実践知は理論を生み出せるかー

【B301 教室】

全体進行：岩本裕子（関西国際大学）

コメンテーター：妻鹿ふみ子（東海大学）

発題者：永井美佳（大阪ボランティア協会） 広野ゆい（DDAC 発達障害をもつ大人の会）

南多恵子（関西福祉科学大学）

世話人：岩本裕子（関西国際大学）

南多恵子（関西福祉科学大学）

青山織衣（大阪ボランティア協会） 永井美佳（大阪ボランティア協会）

村上貴栄（京都光華女子大学）

妻鹿ふみ子（東海大学）

書籍販売

11/23 10:00~18:15 11/24 9:00~13:00

■ 書籍等販売

【A棟ロビー】

学会総会

【B201 教室】 17:15~18:15

情報交換会

【厚生棟2階 学生食堂しゃだいにんぐ】 18:30~20:30

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 2日目：11月24日(日) ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

自由研究発表・ポスター発表

9:00~12:00

■ 第1分科会 学校・高等学校を中心とした展開/海外の動向などの報告 【C301 教室】

司会：梶野光信（日本大学）

9:00~ 9:30	インクルーシブ教育による発達障害児と在籍学級児童の変容の考察 ～担任による福祉教育と専門教員による特別支援教育のアプローチ法を組み合わせ～ 坂本晃一(墨田区立菊川小学校)
9:30~10:00	学校における福祉教育プログラムの目的設定に関するチェックリストの提案 ○楠聖伸(武蔵野大学)、保井俊之(叡啓大学)、前野隆司(武蔵野大学)、 白坂成功(慶應義塾大学大学院)
10:00~10:30	高校生が社会人と分かち合う社会 design の実践研究 ～agency と generativity の sharing community の醸成～ 大滝 修(東京経済大学)
10:40~11:10	ドイツにおける社会教育福祉学的な青少年育成 ～子ども・若者の貧困を中心として～ 齊藤ゆか(神奈川大学)
11:10~11:30	総括討議

■ 第2分科会 実践プログラム・評価に関する報告/大学を中心とした展開 【C302 教室】

司会：松山 毅（順天堂大学）

9:00~ 9:30	「語り」の協創がもたらす意義と可能性 —パブリックスティグマ回避の観点から— ○松本すみ子(東京国際大学)、岡田隆志(福井県立大学)、森新太郎(NPO 法人 KITARU)
9:30~10:00	知的障害児(者)との交流経験の種類と知的障害児(者)のイメージの関連 —保育科学生の施設実習前後における調査から— ○長谷中崇志(愛知みずほ短期大学)、高瀬慎二(愛知みずほ大学)、 大崎千秋(名古屋柳城短期大学)
10:00~10:30	社会福祉施設が認識する施設での介護等体験の意義 丸岡稔典(四天王寺大学)

10:40~11:10	大学におけるボランティアコーディネーターの専門性 ～市民教育の場としての地域認識とコーディネーション実践～ ○川田虎男(埼玉県立大学)、若原幸範(聖学院大学ボランティア活動支援センター)
11:10~11:40	重度肢体不自由学生に対する大学の障害学生支援の実際から示唆される課題 藤森慎太郎(文京学院大学大学院)
11:40~12:00	総括討議

■ 第3分科会 地域・施設・社協を中心とした展開①

【A301 教室】

司会：川島ゆり子（日本福祉大学）

9:00~ 9:30	高校生ボランティアの参加・継続を促進する要因 -足立区 GG 会スマホ教室の展開- ○清信大樹(人間環境大学)、岡多枝子(人間環境大学)
9:30~10:00	市民後見人の特性と地域共生社会の実現 -市民後見人が展開する後見業務と地域への影響- 香山芳範(同志社大学大学院)
10:00~10:30	「住民主体とプラットフォーム型体制づくり」の試みと課題 ～逗子市社協「福祉教育チーム」の20年間の活動から浮かび上がってきていること①～ ○宮脇文恵(宇都宮短期大学)、経塚由紀子(逗子市社会福祉協議会)、山西優二(早稲田大学)
10:40~11:10	「学校を含む地域での学びづくり」の試みと課題 多様な学びづくりから文化づくりに向けて ～逗子市社協「福祉教育チーム」の20年間の活動から浮かび上がってきていること②～ ○山西優二(早稲田大学)、経塚由紀子(逗子市社会福祉協議会)、宮脇文恵(宇都宮短期大学)
11:10~11:40	他者の合理性を学び合う対話的な福祉教育とは —社協の道德教育型福祉教育の現状を踏まえて 西村洋己(兵庫県立大学院・岡山県社会福祉協議会)
11:40~12:00	総括討議

■ 第4分科会 地域・施設・社協を中心とした展開②

【A302 教室】

司会：大石剛史（東北福祉大学）

9:00~ 9:30	福祉教育推進員の養成研修の効果に関する一考察 ○藤川奈月・下徳真吾・駒井公(全国社会福祉協議会)
9:30~10:00	彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワークの活動を通じて ～多様な当事者が活躍する福祉教育・ボランティア学習の意義と継続～ ○須田正子・横田八枝子(彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク)
10:00~10:30	知的障害当事者が運営する障害者の居場所作りに関する研究 -ボランティアへのインタビュー調査から- 岸 佑太(日本福祉大学)
10:40~11:10	「当事者」によって経験される「当事者性」 -貧困対策としての学習支援を経験した若者の生活史から- 長澤敦士(京都大学大学院)
11:10~11:30	総括討議

9:00~12:00	<p>Covid-19 以降の介護等体験代替措置期間における実践 -介護等体験受け入れ経験者による一考察- ○高橋真琴(鳴門教育大学)、中西裕子(兵庫教育大学大学院)、尾関美和(尚絅大学)</p>
	<p>保育系学生による地域貢献活動が「保育者観」の醸成に与える影響 -こども環境に対する意識の変遷に着目して- 久米 隼(武蔵野短期大学)</p>
	<p>大学生におけるボランティア活動の阻害要因に関する考察 佐藤大介(日本福祉大学)</p>
	<p>日本におけるサービス・ラーニングの展開(32) -インタースクール型ボランティアサークルにおける学習成果をめぐって- ○山田一隆(東海大学)、大束貢生(佛教大学)、古川秀夫(龍谷大学)</p>
	<p>しょうがい者就労支援団体と教育機関との連携に基づく福祉教育実践 林 典生(南九州大学)</p>
	<p>“住民が住民を育てる”シルバーリハビリ体操指導士の活動継続性について ~養成システムに着目して~ 古澤 綾(茨城県総合健診協会 シルバーリハビリ体操推進センター)</p>
	<p>「社会に開かれた教育課程」を支える公民館活動の実践過程 ——複線経路・等至性アプローチを採用した仮説的検討—— ○石原光彩(ヒューマンライフケア株式会社)、山田一隆(東海大学)</p>
	<p>初年次の学生が当事者と関わる意義 ~社会福祉学部における授業の前後比較から~ ○森 歩夢・萬代由希子・岡崎利治(関西福祉大学)</p>
	<p>観光におけるバリアフリー接遇上の課題 -バリアフリー接遇を要する当事者の経験に基づく検討- 大部令絵(日本社会事業大学)</p>

第 30 回大会記念シンポジウム

【講堂】 13:00~15:30

「究める 拡がる 福祉教育・ボランティア学習」

コーディネーター： 妻鹿ふみ子(東海大学) 小林洋司(日本福祉大学)

発題者：〔研究編〕 諏訪 徹(日本大学)

〔実践編〕 野川すみれ(名古屋市社会福祉協議会)

コメンテーター： 宮本 朋子(有田市社会福祉協議会) 高木寛之(山梨県立大学)

大会賞表彰式

【講堂】 15:30~15:40

閉会

【講堂】 15:40~16:00

■大会実行委員長あいさつ

田村真広(日本社会事業大学)

■学会副会長あいさつ

松岡広路(学会副会長、神戸大学)

■次回開催地あいさつ

木村謙児(八幡浜みなとと みなと交流館)

中学統合をきっかけにした福祉教育の発展

有田市社会福祉協議会 宮本朋子
摂南大学現代社会学部 上野山裕士

中学統合に向け「総合的な学習の時間」を3校で取り組む

人口 25,000 人強の和歌山県有田市では、2024 年 4 月から 4 校の中学校が 1 校に統合されることが決定していた（内 1 校は先行統合を実施）。思春期の生徒らが急な環境変化に対応できるように、各校側が連携し、教科書のない「総合的な学習の時間」に合同で取り組むこととなった。

目的やゴールをすり合わせることの困難さ

統合時に 3 年生になる生徒たちが 1 年次に始まったこの活動は、新中学校の名称「有和」にちなみ「ゆうわプロジェクト」と名付けられた。平仮名にしているのは、三校の校風や生徒・教諭同士が融和され、ひとつになるようにという意味も含まれるためである。

本プロジェクトは、福祉を入りに、地域学習・キャリア教育も含めた活動を目指すこととなり、後述の経緯から、社協職員がコーディネーターとして参画することとなった。

初回の話し合いでは、統合後の在り方が見えないことに加え、各校で長年続けている取組や閉校に向けた新たな動きについても検討する必要がある、総合の学習を具体化させることは容易ではなかった。また、話し合いを通じて、福祉と教育分野それぞれの「用語の使い方」にも隔たりがあることも見えてきた。

地域福祉活動計画が紡いだ縁

ここで、社協職員がコーディネーターとして参画することになった経緯について述べる。有田市社協では、2013 年度から「子どもたちがつなぐ未来への希望 福祉の種まきプロジェクト」をテーマにさまざまな福祉教育事業を実施してきた。『第 3 次有田市地域福祉活動計画』には中学生によるまちづくりプランも掲載している。そのプロセスに共感した教諭の一人が、表現の違いこそあれど教育現場と目指すものは同じであると他の教諭に説明されたことで、その方向性が決定された。これまでの実践の積み重ねが社協への参画依頼につながったと考えられるが、地域福祉活動計画がそのきっかけとなったことを踏まえると、取組を言語化し、発信することの重要性を再認識する出来事であった。

ゆうわプロジェクト 1st ～市が抱える課題の解決策を考える～

「ゆうわプロジェクト」は「ふくしとはなにか」という大きな問いを掲げ、『第 3 次有田市地域福祉活動計画』での重点課題を中学生の視点で掘り下げることからスタートした。各校で班を編成し、4 つの重点課題（つながりの希薄化・担い手不足・当事者の課題共有・情報発信）から一つを選択し、原因仮説を設定し、解決案を考えた。社協でテーマ別にヒアリング先を調整し、生徒が地域に出て仮説検証のヒアリングを実施した。

また、市内企業の協力を得て、「未来の就職説明会」を実施した。ここでは、各企業の事業のほか、福祉的な取組について紹介いただいた。同時に、ハローワークや若者・サポートステーションの協力により、働くことや相談できる場所があるということを生徒らが知る機会をつくった。

3 学期、代表班が最終発表会で課題解決案を発表した。そこには、これまで授業に参加した団体や企業も出席したほか、大学教員から学術的なフィードバックを受け、2 年次のプログラムにつながった。

ゆうわプロジェクト 2nd ～課題解決のためのアクションプランをつくる～

1 年次の活動を経て、課題解決に向けた実践に取り組むというゴールを生徒たちと共有し、「ゆうわプロジェクト 2nd」を始動させた。3 校合同班を編成し、行政、企業、公益法人などさまざまな外部協同者とともに、重点課題の解決に向けたアクションプランづくりを行った（下図）。

質の高い地域と学生との協働の実践のためにプログラム担当者に求められる4つの視点	
協働の実践に対するサポート	具体的な手法
(1) 学生の主体性を引き出す指導	学生が事前／事後学習等を行うにあたって必要な情報の提供 地域との協働の実践であることを意識づけるような指導助言 学生に対する積極的な声掛け
(2) 連携先との連絡調整	地域側担当者との連絡調整 学生間の情報共有のための体制構築
(3) 地域と学生とが主体的に活動するための基盤整備	活動の目的、内容についての地域側担当者との協議、意見の擦り合わせ ※年度をまたぐ活動の場合は実践展開における課題の共有、その解消に向けた方策を協議することも必要となる 学生に対する協働の実践の趣旨説明 ※「このプログラムでは、××を〇〇の方法で、△△までに行う」など、できるかぎり具体的に
(4) 課題解決までのプロセスを見据えたマネジメント	協働の実践の展開過程における一貫性(地域が抱える課題への適切な対応)と柔軟性(日々変化する地域を取り巻く状況への対応)への配慮
4つの視点の実効性を高めるためのポイント	
①地域や学生との信頼関係の構築	
②地域が抱える課題解決の主体としての自覚	
③継続的関与への働きかけ	

左表「協働の実践における指導のポイント」

(出所：上野山作成)

※2 年次開始前、摂南大学上野山講師から PBL の取り組み方と指導のポイントについて解説。3 校の学年担当教諭全員が参加。

参画	活動テーマ	解決しようとする課題
㈱サカモト	①ドローン動画 P R ②みかんを使った新ジェラート	① 情報発信 ②担い手不足
紀州有田商工会議所	③有田市の PR アイテム作成	③ 情報発信
宮原公民館	④有田市民のつながりの活性化	④ つながりの希薄化
保田公民館	⑤公民館の活性化と広報活動	⑤ つながりの希薄化
㈱ライオンケミカル	⑥地場産業蚊取り線香 P R	⑥ 情報発信
中央地区公民館	⑦シニアスマホ講座	⑦ つながりの希薄化・情報発信
有田市社協	⑧防災啓発⑨お悩み相談⑩ゆうわプロジェクト PR	⑧担い手不足⑨当事者の課題共有⑩情報発信
(一社)大地	⑪アイスクリームバナナ製品	⑪情報発信
有田市生活環境課	⑫有田市クリーン作戦	⑫担い手不足

※表中の丸囲み数字はグループ番号を示す。

ゆうわプロジェクト 3rd ～アクションプランを実践する～

2024 年 4 月有和中学校が開校し、新校舎に 3 校の生徒が集まった。ゆうわプロジェクト 3rd は、2 年次の班編成のまま、アクションプランを実践することを目指した。

プランの実践は容易ではなかったが、生徒・教諭・外部協働それぞれの視野を広げる機会となった。活動の一部は、次学年にも引き継がれ、課外活動として実践に取り組む生徒たちもいる。

学習形態は PBL 学習となっているが、立場の違う人たちが同じ目標に向かって学び合う形は、多様な人びとと関わりながら地域が抱える福祉課題を把握、解決しようとする福祉教育そのものだといえる。ゆうわプロジェクトの意義や課題は、今後、生徒・教諭・外部協働者へのアンケートやリフレクションで明らかにする予定である。コーディネーターの立場としては、各班が設定した目標のほか、お互いを尊重する姿勢や地域に対する愛着の醸成、課題発見・解決力の向上など、学力では測れない成果もあったと考えている。また本プロジェクトは、中学校統合という大きな契機により始動したものであるが、一連の取組を通じて得られた知見や多様なつながりを一過性のものとすることなく、地域における福祉教育実践へと展開させるべく、社協としても関係団体に働きかけていきたい。

拡大理事会を開催しました

理事・事務局次長 大石 剛史 (東北福祉大学)

去る9月14日、学会理事と特任理事が参加する拡大理事会がオンライン開催された。拡大理事会は、理事と拡大理事とが一同に会し、学会の今後についてざっくばらんに話し合うことを目的に、年1回開催している。

まず、この日の午前中に開催された理事会での議事内容について、とうきょう大会の概要、30周年記念事業の進捗状況、2025年度の事業計画案の概要(研究紀要の電子ジャーナル化やホームページリニューアル等)が報告された。

また、現在研究が進められている3つの課題別研究の進捗状況について、①「SDGs 運動と居場所づくり・プラットフォームづくりの関係を問う」(3年目)、②「『社会福祉・介護福祉検定』のレリバンズー高校福祉教育の新たな地平を拓くー」(2年目)、③「インクルーシブボランティア『誰もが参加できる』を目指して～実践値は理論を生み出せるか～」(1年目)、それぞれの研究の進捗状況の報告と活発な討議が行われた。

最後に、今後の学会活動の方向性について議論が行われ、学会のアイデンティティを再考する必要性や、今後の研究の広がりやをどう促進していくのか等について、重要な討議が行われた。

学会ホームページがリニューアルされました

学会ホームページが、10月30日から新たなデザインとコンテンツにリニューアルされました。

広報・アーカイブ委員会では、学会のあり方検討会(2019年11月)の報告、それをふまえた理事会における議論と提案、会員からの意見・アイデアを受けて、学会の研究や活動成果をアーカイブする内容と、アーカイブの公開と共有の機能を持たせたホームページの充実について検討し、ホームページリニューアルの準備をすすめてきました。

新しいホームページでは、これまでのページで公開されていたコンテンツの移行とともに、主に次の情報が追加・整理されています。

- ・学会とは ・会長あいさつ ・声明 ・名誉会員 ・会員構成 ・自由研究発表
- ・大会発表賞/受賞内容 ・課題別研究/ふくボラサロン
- ・ブロック・テーマ別活動/助成 ・福祉教育推進員 ・学会共催・後援事業
- ・報告書 ・会員情報の変更手続

直近の情報から掲載し、今後はアーカイブの充実を図っていく予定です。

スマートフォンからの閲覧用レイアウトにも対応しています。ぜひ新しいホームページをご覧ください。

<https://jaass.jp/>

(広報・アーカイブ委員会 熊谷紀良)



●編集後記●

毎年、この時期は本学会の大会情報をご案内しています。学会ニュースを見て参加を決める方もいることを期待して、編集作業をしています。ぜひ、『とうきょう大会』でお会いできることを楽しみにしています。

(梅澤)